

天声人語

花が捧げられ、黙禱がなされた原爆死没者慰靈碑の場所は、おすし屋さんのちょうど前あたりだった。近くには、八百屋さんや時計屋さん、郵便局もあった。地元広島の中国新聞社が復元した町並みの地図を重ねてみる。市井の人たちの暮らしが、確かにあつた▼それがすべて破壊されたのが、1945年8月6日朝だった。原爆の悲劇を繰り返さない、そんな願いが込められた平和記念公園をオバマ米大統領が訪れた▼現職大統領として初の訪問ではあるが、どこまで意味があるのか正直迷うところもある。「核なき世界」でノーベル平和賞が決まった6年前、「彼はまだ、何もしていいじゃないじゃないか」との声があった。核はいまも世界にあり、彼の任期は残り8カ月である▼それでも米国が世界が、核を見つめ直す道のりの大きな一步になると信じたい。かつて原爆投下にかかる、罪を悔んだ元パイロットが書いている。「広島の廢墟の下に眠っている人びとが泣きながら、平和を求めてさけんでいる声がきこえてきます」（『ヒロシマわが罪と罰』）▼被爆者たちがぜひにと求めた平和記念資料館にも、オバマ氏は訪れた。焼けただれた人たちの姿があり、原爆症に倒れた少女の物語がある。滞在時間は短くとも、学ぼうとする人は訴えかけるものがあるはずだ▼オバマ氏は演説で「記憶」について語った。私たちが慢心と戦うための力になると。語り継ぎ、未来への糧にする。容易ではないが、けつして不可能ではない。

2016・5・28